

小学校道徳科教科書における指導内容取扱い数

平 田 繁

Contents Organization of Textbooks on Morality for Elementary School Students

Shigeru Hirata

はじめに

道徳の時間が教科化され、2018年4月より「特別の教科 道徳」（以下道徳科）として小学校で完全実施となった。このことにより、検定教科書を用いた授業が開始されることとなった。これまでは、出版社の副読本を主たる教材とし、「心のノート」、「私たちの道徳」、「小学校読み物資料集」の文科省出版物、各自治体で作成された地域教材等が年間指導計画に位置付けられ、使用されてきた。この間、副読本購入に関わる財政的な負担から自治体や学校間格差が見受けられたり、扱う地域教材の学習指導要領等への準拠性や政治的・宗教的なことに関わる公正性、教材の内容に関わる正確性が担保されていなかったりという問題も見受けられた。教科化され、教科書を主たる教材として用いることにより、道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものにし、多様で効果的な指導方法、成長を促す評価の在り方等が工夫され、その結果、いじめや自殺、情報モラル等、山積する豊かな心の育成の問題解決に資することが期待される。

ところで検定教科書は、8社が合格した。東京書籍（以下東書）、日本文教出版（以下日文）、学研教育みらい（以下学研）、光村図書（以下光村）、光文書院（以下光文）、教育出版（以下教出）、廣済堂あかつき（以下廣あかつき）、学校図書（以下学図）である。産経新聞（2017. 1107）によると、道徳科教科書の占有率は、東書と日文が各21.3%、光村17.1%、学研14.8%、教出8.6%、光文8.4%、

学図5.7%、廣あかつき2.9%であった。各教育委員会の採択理由を紹介している読売新聞（2017. 1214）の記事によれば、「若手や経験の浅い教員が道徳科の授業に慣れることを重視した」や「子供が簡単には答えられない葛藤場面が分かりやすく示され、話し合いにつながりやすい」、「教員が創意工夫を発揮しやすく、授業力向上につながる」、「いじめを扱う特設コーナーを各学年で設け、いじめ防止を重視する姿勢が見える」等としている。

今回採択された教科書は、2019年度までの2年間使用されるが、そもそも各教科書の基本的な特徴はどのようなもののだろうか。教材数や各指導内容への配当数等、基本的な特徴について明らかにするものである。

1. 目標

小学校道徳科の教科書として検定合格した8社の基本的な形式と教材数、指導内容項目、構成について比較検討を行い、年間指導計画作成に生かすべき事を中心に各教科書の特徴を明らかにする。

2. 対象及び方法

○ 小学校現場に配給された2018年度小学校道徳科教科書8社の1学年から6学年までの計48冊、及び付録されていた3社のノートの1学年から6学年までの18冊、合計66冊を対象とした。

○ 教材は、教科書の目次に明記され、且つ巻末の指導内容一覧表の各指導内容の項目に位置付けられている教材をカウントするようにした。コラムや補充資料等として教材名が目次に掲載されていても、巻末の指導内容一覧表に位置付けられていないものは対象から外した。

○ 教科書会社毎に教材を4視点「A. 主として自分自身に関すること」、「B. 主として人との関わりに関すること」、「C. 主として集団や社会との関わりに関すること」、「D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」で集計した。また、1学年1指導内容あ

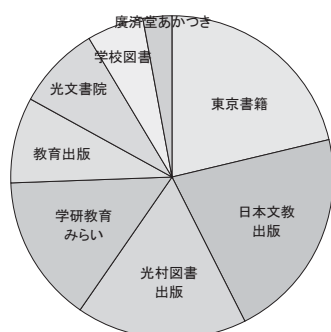


図1 2018年度小学校道徳教科書の占有率

たりの教材数の平均値を出し、比較するようにした。各学年最低でも1教材扱わなければいけないので平均値の最低は1となる。

3. 結果及び考察

(1) 教科書とノートの判型及び頁数 (表1, 表2参照)

東書, 日文, 教出, 学図, 廣あかつきが AB 版 (27.7×21), 光村 B 5, 学研 A 4, 光文 A 4 変 (28.4×21) であった。ノートを付録しているのが日文 B 5 版, 学図 AB 版, 廣あかつき AB 版の3社であった。

教科書の頁数にも差がある。例えば1年生では最低と最高で約40頁, 6年生で約50頁差があった。教科書とノートを合わせると, 学研と教出の頁数が少なく, 選定する時に挿絵や参考資料の有無等, 量的な原因になり得る要素について検討して採択する必要がある。頁数や判型は, ランドセルや引き出し, ロッカー等での管理や運搬に関わって, 他の教科書と同型で必要以上に厚くないことが期待されるであろう。

表1 教科書の判型と頁数

出版社名	判型	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東京書籍	AB	120	140	162	166	178	194
日本文教出版	AB	146	166	178	186	186	186
光村図書出版	B 5	129	153	177	185	197	209
学研教育みらい	A 4	130	134	150	154	162	162
教育出版	AB	122	134	138	146	154	154
光文書院	A 4 変	158	166	182	186	190	194
学校図書	AB	122	130	142	158	154	154
廣済堂あかつき	AB	118	118	126	138	162	170

表2 ノートの判型と頁数

出版社名	判型	1年	2年	3年	4年	5年	6年
日本文教出版	B 5	40	41	41	41	41	41
学校図書	AB	48	48	48	48	52	52
廣済堂あかつき	AB	52	52	56	56	64	64

(2) 教材数 (表3, 表4参照)

東書215, 日文229, 光村209, 学研209, 教出203, 光文240, 学書209, 廣あかつき209であった。東書は209に各学年1, 計6を補充教材として位置付けていた。日文は209に1年~4年各3, 5・6年各4, 計20を補充教材として位置付けていた。教出は各学年29に1年4, 2年~6年各5, 計29を補充教材として位置付け, 合計203としていた。光文は当初から各学年40で編集し, 合計240であった。

道徳科の小学校6年間の標準授業時数は合計209時間であるので, 原則209の教材を収録しておいた方が教科書のみで年間指導計画を組むことができる。そういう意味で, 教出以外の7社は可能ということになる。しかし各学校に於いては, 児童や地域の実態に応じて指導内容の重点化を図るであろう。そうした場合, 重点化した指導内容は教材が二つや三つ, 場合によっては四つ等, 複数必要となる。教科書会社が想定した重点化の通りになれば良いが, それは考えにくい。標準授業時数を満たした7社を採択したとしても, 各学校に於いては重点化した指導内容に応じた教材を補充する必要があると共に, 教科書会社が想定した重点指導内容の教材は複数あるので, 逆に減らす必要が生じることとなる。このように考えた場合, 教出は, 各学校の実情に応じて重点化を図るとともに, 今までの実践事例に基づく教材や地域教材を組み入れることを想定して, 或いは促しているとも言える。

(3) 視点毎の教材数

① 4視点の1指導内容平均値の比較

4視点毎に比較したのが図2である。平均して取り上げているのが日文, 光村である。「D. 生命や自然, 崇高」を重視しているのが東書, 光文である。廣あかつきは「A. 自分自身」, 学図は「A. 自分自身」と「D.

表3 出版社別各学年4視点 教材数一覧表

出版社	東京書籍								日本文教出版								光村図書								学研教育みらい							
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計				
A. 主として自分自身	11	10	9	10	8	9	57	11	11	10	11	8	9	60	10	10	9	9	9	8	55	11	11	9	9	9	9	58				
B. 主として人	9	8	8	8	7	7	47	8	8	10	10	10	8	54	8	8	9	9	9	9	52	8	8	9	9	9	9	52				
C. 主として集団や社会	9	10	12	11	13	12	67	14	13	12	11	14	14	78	11	12	12	12	11	11	69	9	10	11	11	9	9	59				
D. 主として生命や自然, 崇高	6	8	7	7	8	8	44	4	6	6	6	7	8	37	5	5	5	5	6	7	33	6	6	6	6	8	8	40				
計	35	36	36	36	36	36	215	37	38	38	38	39	39	229	34	35	35	35	35	35	209	34	35	35	35	35	35	209				
出版社	教育出版								光文書院								学校図書								廣済堂あかつき							
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計				
A. 主として自分自身	9	9	10	9	8	12	57	12	11	7	8	10	10	58	11	11	10	10	9	9	60	11	11	10	10	11	11	64				
B. 主として人	6	8	8	8	6	6	42	9	9	12	11	9	8	58	7	8	9	9	7	7	47	8	8	9	9	8	8	50				
C. 主として集団や社会	11	9	12	12	14	11	69	12	13	14	14	12	13	78	10	10	10	10	12	12	64	10	11	11	11	10	10	63				
D. 主として生命や自然, 崇高	7	8	4	5	6	5	35	7	7	7	7	9	9	46	6	6	6	6	7	7	38	5	5	5	5	6	6	32				
計	33	34	34	34	34	34	203	40	40	40	40	40	40	240	34	35	35	35	35	35	209	34	35	35	35	35	35	209				

表4 出版社の各学年教材数一覧表

	出版社	東京書籍					日本文教出版					光村図書					学研教育みらい									
	指導内容 \ 学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
A 自分自身	善悪の判断, 自律, 自由と責任	2	2	2	2	1	1	3	3	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3
	正直, 誠実	3	2	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1
	節度, 節制	3	3	2	3	2	3	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	3	2	2	1	1	1	1
	個性の伸長	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2	1	2	1	1	1
	希望と勇気, 努力と強い意志	2	2	2	2	2	2	1	2	2	3	1	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	真理の探究						1	1					1	1					1	1					1	1
	A. 主として自分自身	計	11	10	9	10	8	9	11	11	10	11	8	9	10	10	9	9	9	8	11	11	9	9	9	9
B 人	親切, 思いやり	3	3	3	3	2	2	1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3
	感謝	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
	礼儀	2	2	1	1	1	1	3	3	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1
	友情, 信頼	2	2	2	2	2	2	3	1	3	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2
	相互理解, 寛容				1	1	1	1			1	3	2	2			2	2	2			1	1	2	2	2
	B. 主として人	計	9	8	8	8	7	7	8	8	10	10	10	8	8	9	9	9	9	8	8	9	9	9	9	9
C 集団や社会	規則の尊重	2	2	3	2	3	2	3	3	3	1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	
	公正, 公平, 社会正義	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	
	勤労, 公共の精神	1	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
	家族愛, 家庭生活の充実	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
	よりよい学校生活, 集団生活の充実	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	
	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	
	国際理解, 国際親善	1	1	1	1	2	2	3	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	
C. 主として集団や社会	計	9	10	12	11	13	12	14	13	12	11	14	14	11	12	12	11	11	9	10	11	11	9	9		
D 生命や自然, 崇高	生命の尊さ	3	4	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	自然愛護	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	
	感動, 畏敬の念	1	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	
	よりよく生きる喜び						1	1					2	2					1	2				2	2	
	D. 主として生命や自然, 崇高	計	6	8	7	7	8	8	4	6	6	6	7	8	5	5	5	5	6	7	6	6	6	8	8	
	合計	35	36	36	36	36	37	38	38	38	39	39	34	35	35	35	35	35	34	35	35	35	35	35		

	出版社	教育出版					光文書院					学校図書					廣済堂あかつき									
	指導内容 \ 学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
A 自分自身	善悪の判断, 自律, 自由と責任	2	2	2	1	1	2	3	3	2	2	2	1	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	
	正直, 誠実	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	
	節度, 節制	3	3	4	2	1	2	5	4	2	2	1	1	3	3	3	3	2	2	3	3	2	2	2	2	
	個性の伸長	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	希望と勇気, 努力と強い意志	1	2	2	4	3	4	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	真理の探究						1	1					1	2						1	1				1	1
	A. 主として自分自身	計	9	9	10	9	8	12	11	7	8	10	10	11	11	10	10	9	9	11	11	10	10	11	11	
B 人	親切, 思いやり	2	2	2	2	1	1	2	4	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	
	感謝	1	2	2	1	1	1	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	礼儀	1	2	2	2	1	1	3	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	
	友情, 信頼	2	2	1	2	2	2	2	2	4	4	2	2	2	2	3	3	1	1	2	2	2	2	2	2	
	相互理解, 寛容				1	1	1	1			2	2	3	2			1	1	2	2			1	1	1	
	B. 主として人	計	6	8	8	8	6	6	9	9	12	11	9	8	7	8	9	9	7	7	8	8	9	9	8	
C 集団や社会	規則の尊重	1	2	2	1	2	1	3	2	4	4	2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	2	
	公正, 公平, 社会正義	1	1	2	1	2	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	勤労, 公共の精神	2	1	1	2	1	1	1	2	1	2	3	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
	家族愛, 家庭生活の充実	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	
	よりよい学校生活, 集団生活の充実	3	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	2	2	4	4	4	4	2	2	3	2	2	4	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	2	
	国際理解, 国際親善	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
C. 主として集団や社会	計	11	9	12	12	14	11	12	13	14	14	12	13	10	10	10	10	12	12	10	11	11	11	10		
D 生命や自然, 崇高	生命の尊さ	3	3	2	3	1	1	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	自然愛護	2	3	1	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
	感動, 畏敬の念	2	2	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
	よりよく生きる喜び						2	2					2	2					1	1				1	1	
	D. 主として生命や自然, 崇高	計	7	8	4	5	6	5	7	7	7	7	9	9	6	6	6	6	7	7	5	5	5	6	6	
	合計	33	34	34	34	34	40	40	40	40	40	40	34	35	35	35	35	35	34	35	35	35	35	35		

注：日文5年・6年の価値葛藤の教材は、指導内容が二つ記されていた。両教材を読み、共に最初に記述されている方が主だと考え、5年「なくしたかぎ」は、友情信頼、6年「門番のマルコ」は、規則の尊重でカウントしている。

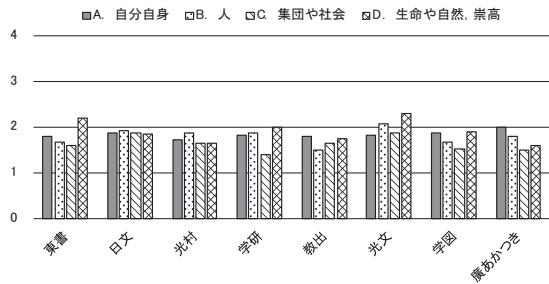


図2 4視点の1指導内容平均値の比較

生命や自然、崇高」を重視している。学研は、「C. 集団や社会」を抑え、他の3視点に教材を振り分けている。各社「D. 生命や自然、崇高」や「A. 自分自身」を重視する傾向が窺える。

各学校に於いては、「A. 自分自身」を土台として「B. 人」、「C. 集団や社会」へと広げていくのか、逆に「B. 人」、「C. 集団や社会」と高めていくのか、また平均的教材扱いの出版社にするのか、「D. 生命や自然、崇高」のように重点化していた方が良いのか、6年間を見通した採択としていく必要がある。また、学校の重点指導内容に合致する教書採択が期待される。

② 視点「A. 主として自分自身に関する事」の1指導内容平均値の比較

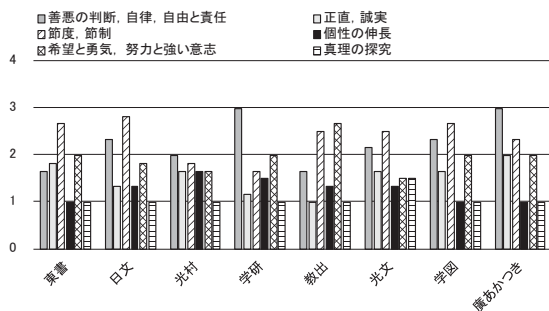


図3 視点A 1指導内容平均値の比較

結果は図3の通りである。各社バラツキが多い中、光村は比較的 average して教材を取り上げている。他社は「善悪の判断、自律、自由と責任」、「節度、節制」、「希望と勇氣、努力と強い意志」の何れかを重視し、他の指導内容を抑えている。これは、学習指導要領の重点指導内容に沿ったものだと考えられる。また、学年配当を表4で見ると、「節度、節制」は、各社とも低学年か中学年まで重視する傾向である。また、「善悪の判断、自律、自由と責任」は低学年で重視するか、6年間通して重視している学研や廣あかつきというように分けられる。いずれにせよ、指導内容の重点が地域や学校・学年の実態に沿うものなのか検討が必要となる。

③ 視点「B. 主として人との関わりに関する事」の1指導内容平均値の比較

結果は図4の通りである。光村は average して教材を取り上げているが、他社は「親切、思いやり」、「友情、信頼」の教材を重視する傾向にある。特に東書、学研、光文、

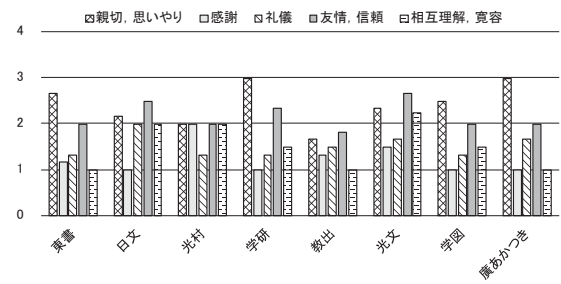


図4 視点B 1指導内容平均値の比較

学図、廣あかつきは、重点化を図っている。また、学年配当を表4で見ると「親切、思いやり」を低・中学年で重視する東書、日文、学図に対して、学研や廣あかつきは6年間を通して重視している。

以上のことから視点Bについても、視点A同様、指導内容の重点、発達段階に応じた系統に目を向ける必要がある。また、東書、学研、学図、廣あかつきの4社については、視点Bについて特徴的な編集を行っていると言える。

④ 視点「C. 主として集団や社会との関わりに関する事」の1指導内容平均値の比較

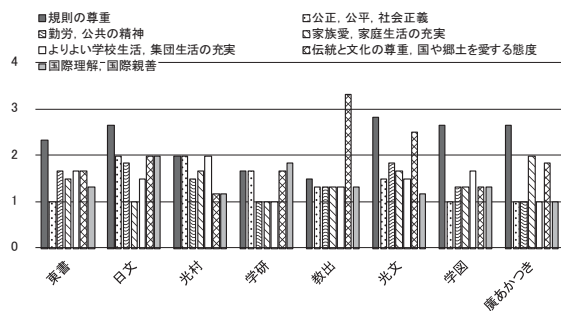


図5 視点C 1指導内容平均値の比較

結果は図5の通りである。「規則の尊重」は、学習指導要領の重点指導内容であるので、日文、光文、学図、廣あかつきが重点化している。また、学習指導要領の高学年重点指導内容である「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」も教出、光文が重視している。また、学年配当を表4で見ると「規則の尊重」を6年間通して重視する日文、低・中学年で重視する学図と廣あかつき、中学年で重視する光文となっている。教出は、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について中・高学年で4ずつ配置して最重要化し、特徴的な編集をしていると言える。

以上のことから視点Cについても、他の視点同様、指導内容の重点、発達段階に応じた系統に目を向ける必要がある。特に教出、光文、学図、廣あかつきの4社の特徴が現れている部分と言える。

⑤ 視点「D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」の1指導内容平均値の比較

結果は図6の通りである。各社「生命の尊さ」を重視している。これは、教科化の大きな背景として「いじめ、

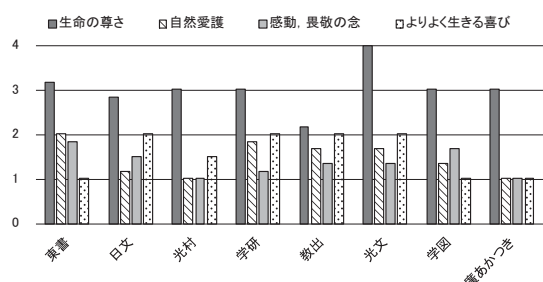


図6 視点D 1 指導内容平均値の比較

自殺」が関係していると考えられる。また、学年配当を表4で見ると光文が全学年に4配置し、他社も同様の傾向が見られる。しかし教出は、高学年で「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」や「希望と勇気、努力と強い意志」を重視した結果、手薄となっている。

⑥ 各社の特徴的な部分

各社の1指導内容に充てている教材数を比較したものが表5である。この結果から、各社の重点化した指導内容を明らかにすることとする。

東書は、「生命の尊さ」3.17、「節度・節制」2.67、「親切、思いやり」2.67であった。日文は、「生命の尊さ」2.83、「節度・節制」2.83、「規則の尊重」2.67であった。光村は、「生命の尊さ」3.0であった。学研は、「善悪の判断、自律、自由と責任」3.0、「親切、思いやり」3.0、「生命の尊さ」3.0であった。教出は、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」3.33、「希望と勇気、努力

と強い意志」2.67であった。光文は、「生命の尊さ」4.0、「規則の尊重」2.83、「友情・信頼」2.67であった。学図は、「生命の尊さ」3.0、「規則の尊重」2.67、「節度・節制」2.67であった。廣あかつきは、「善悪の判断、自律、自由と責任」3.0、「親切、思いやり」3.0、「生命の尊さ」3.0、「規則の尊重」2.67であった。また、指導内容に平均1教材しか充てていない数を見ると、廣あかつき11、光文0、他社は、3ないし5であった。

以上のことから、特徴的な教材配置をしていたのは、廣あかつきと教出である。廣あかつきは、指導内容の重点化を図り、結果として他の指導内容は抑えた教材数としていた。教出は、他社と重点の視点が明らかに違い、伝統や文化、先人の生き方を重視していた。また、平均的な教材配置をしているのは、光村ということが明らかとなった。

(4) その他、各社の構成や補充教材等

① 東京書籍 (21×27.7) ~新しい道徳~

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数であるが、付録として、「じょうほうモラル」の教材が各学年1つ取り上げられ、教材として利用可能である。また巻末に、低学年では「節度や規律」に関する資料、中学年や高学年では、「伝統文化、国や郷土」に関する資料があり、補助

表5 出版社別、1学年1指導内容に充てている教材の平均値一覧

指導内容\出版社		東書	日文	光村	学研	教出	光文	学図	廣あかつき
A 自分自身	善悪の判断、自律、自由と責任	1.67	2.33	2.00	3.00	1.67	2.17	2.33	3.00
	正直、誠実	1.83	1.33	1.67	1.17	1.00	1.67	1.67	2.00
	節度、節制	2.67	2.83	1.83	1.67	2.50	2.50	2.67	2.33
	個性の伸長	1.00	1.33	1.67	1.50	1.33	1.33	1.00	1.00
	希望と勇気、努力と強い意志	2.00	1.83	1.67	2.00	2.67	1.50	2.00	2.00
	真理の探究	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.50	1.00	1.00
B 人	親切、思いやり	2.67	2.17	2.00	3.00	1.67	2.33	2.50	3.00
	感謝	1.17	1.00	2.00	1.00	1.33	1.50	1.00	1.00
	礼儀	1.33	2.00	1.33	1.33	1.50	1.67	1.33	1.67
	友情、信頼	2.00	2.50	2.00	2.33	1.83	2.67	2.00	2.00
	相互理解、寛容	1.00	2.00	2.00	1.50	1.00	2.25	1.50	1.00
C 集団や社会	規則の尊重	2.33	2.67	2.00	1.67	1.50	2.83	2.67	2.67
	公正、公平、社会正義	1.00	2.00	2.00	1.67	1.33	1.50	1.00	1.00
	勤労、公共の精神	1.67	1.83	1.50	1.00	1.33	1.83	1.33	1.00
	家族愛、家庭生活の充実	1.50	1.00	1.67	1.00	1.33	1.67	1.33	2.00
	よりよい学校生活、集団生活の充実	1.67	1.50	2.00	1.00	1.33	1.50	1.67	1.00
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	1.67	2.00	1.17	1.67	3.33	2.50	1.33	1.83
	国際理解、国際親善	1.33	2.00	1.17	1.83	1.33	1.17	1.33	1.00
D 生命や自然	生命の尊さ	3.17	2.83	3.00	3.00	2.17	4.00	3.00	3.00
	自然愛護	2.00	1.17	1.00	1.83	1.67	1.67	1.33	1.00
	感動、畏敬の念	1.83	1.50	1.00	1.17	1.33	1.33	1.67	1.00
	よりよく生きる喜び	1.00	2.00	1.50	2.00	2.00	2.00	1.00	1.00

教材として活用可能である。さらに主要教材以外に「出会う・ふれ合う」、「つながる・広がる」、「問題を見つけて考える」、「いじめの世界へ」を各1頁設け、学習の仕方や内容についての参考資料がある。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

各学年とも目次、指導内容の4つの視点に分けた教材の分類、道徳の学習を進めるために「1気づく」、「2考える、話し合う」、「3ふり返る、見つめる」、「4生かす」の段階、及び「話し合いの約束」の頁を設けた後、教材となっている。

教材文の頭には、「時と場をわきまえ、真心を持って」の例のように必ず主題が記載されており、最後には主題追求に関する問い「考える、話し合う」と「ふり返る、見つめる」の例文表示がある。

教科書最後には、「学習のふり返り」として心に残った話や友達の意見、考えたこと学んだこと、これからに生かしていきたいことなどの記録及び各学期のまとめの頁が3頁、「これからもかがやく自分に」として1年間の思いと今後についての記述が1頁ある。

② 日本文教出版(21×27.7)～生きる力～、道徳ノート(18.2×27.7)

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数であるが、巻末に補充教材として、低・中学年3つ、高学年4つ付している。全学年共に3つは、指導内容が明確にされ、高学年「あなたならどうする」とした補充教材のみ価値葛藤があり、議論を促す教材なので年間指導計画への位置付けは学校の判断となる。また、主要教材の間に「心のベンチ」として、教材とつなぐ資料が見開き1頁あり、各学年とも5つ程度ある。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

各学年とも目次、道徳のとびら(指導内容の4つの視点のキーワード)及び道徳の学び、道徳の学び方として「1気づく」、「2考える・深める」、「3見つめる・生かす」の段階、及び「話し合ってみよう」、「動いてみよう」、「書いてみよう」の記述があり、教材の頁となる。

教材文の頭には、「学校を愛する心」のように主題が記載され、「自分の学校のよいところは、どんなところですか」といった導入に関することや「簡単な粗筋と問題、及び主人公」の紹介文・絵がある。各教材文の最後には「考えてみよう」で、教材の中心となる問いや「見

つめよう、生かそう」で、自己の振り返りや今後に生かす文がある。

(エ) 道徳ノート

別冊の道徳ノートは、教科書最後に挟むことができるサイズである。ノートの最初に目次と「ノートのとびら」として、学びたい内容や自己チェック、その後、1教材につき、1頁「自分の考え」、「友達の考え」、「学びやこれからの生き方」を書く欄がある。また、今日の学習のふり返りで「しっかり考えた」、「新しく気づいたことがあった」、「これからたいせつにしたいことがわかった」のチェックがある。ノートの最後には「道徳の学習で学んだことを書きましょう」が4箇所あり、併せて保護者記入欄がある。

③ 光村図書(18×27.7, B5版)～きみがいちばんひかるとき～

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数である。教材の間に「コラム」として、「情報モラル」や「生命」、「自然」等に関する内容が、低学年2箇所各1頁、中学年以上は5箇所各1頁～2頁ある。また、低学年では「夏休みの前に」や「冬休みの前に」の季節的な学びを喚起する頁が各1頁、中学年以上は、「なんだろう なんだろう(ヨシタケシンスケ 作・絵)」の「生命」等、テーマを上げて考えさせる漫画が見開き1頁ある。学期毎の「学びの記録」が低学年1頁、中学年以上2頁ある。さらに中学年以上は、付録として巻末に「あなたへのメッセージ」として著名人2人の言葉が1頁掲載されている。その他、「感情を表す言葉」や「話し方」等、学び方に関わる頁、日本の伝統や文化に関わる資料の頁、「私たちの学ぶ世界」として指導内容と教材名をイメージ化した頁、指導内容と教材、現代的な課題や他教科との関連表の頁となっている。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

教科書は、各学年ともイメージ写真と短いメッセージで始まり、目次、道徳の学び方として「話し合ってみよう」、「演じて考えよう」、「読んで考えよう」、「書いて考えよう」の記述から教材の頁となる。

教材文の頭には、「あきらめないで」のように主題が記載され、学習の前に考えて欲しいことの短い問いの吹き出しがある。各教材文の最後に「考えよう」と「つなげよう」がある。「考えよう」では、主題となる問いと教材文の中で考えることが3箇所程度記載されている。「つなげよう」については、中学年以上にあり、実践へと促すための言葉が吹き出しとして書かれている。

④ 学研 (21×29.6, A4版) ～みんなの道徳～

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数であるが、主要教材の間に「つなげよう」、「深めよう」、「広げよう」、「やってみよう」の各コーナーを1頁、全学年とも15箇所程度入れている。また、各学年に2箇所、「いのち」、「生き方」等とするコーナーを設け、3つの教材を指定し、関連付け、学んだことを書く欄を設けている。学習した主題の補充や発展、実践及び関連を意図している。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

教科書は、各学年ともイメージ写真と短いメッセージで始まり、目次、「道徳の学習が始まるよ」で「いろいろな生き方についてみんなで考えよう」、「語り合い、考えを練ろう」、「学んだことをまとめよう」を示し、プロフィールの頁としている。そして、指導内容の4つの視点のキーワードと教材名を示した後、教材の頁となる。

教材文の頭には、「私のこと」、「社会と私」のように指導内容4つの視点を示し、本文となる。教材文の最後には「考えよう」で、教材の中心となる問いや自己の振り返りや今後に生かす問いの文がある。

教科書最後に「心の宝物-学びの足あと-」を1頁設けている。裏表紙には、各教材と指導内容及び他の教科等との関連表が有る。

⑤ 教育出版 (21×27.7) ～はばたこう明日へ～

(ア) 補充教材等について

教材数は、各学年とも29に1年4つ、2年～6年5つ補助教材を位置付けているが、各学年とも年間標準授業時数より1つ少ない。また、他社のように「コラム」等の資料はなく、収録している教材に「情報モラル」、「命」、「スキル」等のマークが付けられている程度である。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社で決めているが、同じ指導内容の教材を一緒にし、続けて扱うようにしている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

教科書は、各学年とも目次、「学習が始まるよ」で「今の自分やなりたい自分、のびたいたいところ」を書く欄が1頁、学習を始めるに当たっての呼びかけの文が1頁、その後、教材となっている。

同じ指導内容の教材を続けて扱うようになっているので、指導内容毎に「主題」と主題に関する問いかけ、学び方のコメントが書かれている。教材文の最後には、「学びの手引き」として、考えるポイントや話し合いの視点、自己の振り返りや行為等が4つ程度挙げられている。

教科書最後には、「一年間の道徳の学習をふり返ろう」が1頁あり、心に残ったこと、成長、今後、家の人や先生から一言を書く欄がある。低学年は、「みにつけよう れいぎ・マナー」に関して4頁ある。

⑥ 光文書院 (21×28.4) ～ゆたかな心～

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に1年生は6つ、2年生以上は5つ「ふろく(補充教材)」を付け、全学年とも教材数40である。教材の間に「みんなでやってみよう(グループワーク)」が各学年見開き1頁、「みんな仲よし楽しい学校」と「ことばのたからもの(諺等)」が各学年1頁、「コラム」と「情報モラル」を各学年2～5回程度取り上げている。その他、各学年重点指導内容を3つ取り上げ、その導入となる頁をそれぞれ設定している。そして連続して扱うように配列している。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、40の教材を含め、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

教科書は、各学年とも目次、「道徳の学習が始まります(指導内容の4つの視点のキーワード)」、道徳の学び方として「問いをもつ」、「考える」、「話し合う」、「まとめる」の段階、「いろいろな場面で・・・」では、学びをいかすことを促す頁があり「あなたは、どんなじぶんになりたいですか」から、「この本の使い方」として道徳の学習の進め方に関する記述、道徳ノートの例の見開き1頁から、教材の頁となっている。

教材文は、「この本の使い方」で説明され、頭に主題や問いの記述が有り、途中教材に関わる考えるポイントが吹き出しで記載されている。各教材文の最後に「学びをまとめる」と「学びを広げる・生かす」を促す記述がある。

教科書最後には、「学びの足あと」として、学習した日付、教材の番号、授業後の気持ちを矢印で表す、矢印の訳を書く、学期のまとめを書くが、3学期分用意されている。

⑦ 学校図書 (21×27.7) ～かがやけ みらい～、道徳ノート (21×27.7)

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数であるが、教材の間に各学年とも5箇所「読みものコラム(1頁)」がある。「オリンピック・パラリンピック」、「情報モラル」が2、「生命尊重」、「生き方(著名人の話題)」である

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

教科書は、各学年とも目次に1頁、読み物コラム・マークの説明に1頁、「道徳の学習を始めよう(見開き1頁)」で低・中・高学年毎に学び方の説明を書いている。その後、教材の頁となる。

教材文の頭には、指導内容のキーワードと主題がある。他社のように教材文最後には「考えよう 話し合おう」等の記述は全くなく、この部分は道徳ノートに書かれている。

最後に指導内容と教材、学習記録の一覧表があり、感想マークや日付を書き込むようになっている。

(エ) 道徳ノート

別冊の道徳ノートは、最初に目次(見開き1頁)、次の見開き1頁に「ノートの使い方」として「読みもののマーク」、「活動のマーク」、「教科書の頁」、「広げよう」の説明がある。その後、学習指導要領の指導内容順に見開き1頁1指導内容があり、取り上げている教材と考えるポイント、コラムや補充資料で成っている。1つの指導内容に教材が2つであっても、1つであっても見開き1頁となっている。最後は、「保護者の方へ」が1頁有り、指導内容4つの視点と、めざすこと、教材名の表となっている。

⑧ 廣済堂あかつき(21×27.7)～みんなで考え、話し合う～、道徳ノート(21×27.7)

(ア) 補充教材等について

年間標準授業時数に合わせた教材数であるが、教材の間に低・中学年1箇所、高学年5箇所程度、教材補充資料を付けている。また、中学年以上は、巻末に補充教材を3つ付けている。

(イ) 教材の順序

教材の順番(目次)は、教科書会社が考えた年間指導計画順となっている。

(ウ) 表紙以降の頁構成

各学年とも目次(見開き1頁)、詩(1頁)、道徳の時間の説明(1頁)、道徳の時間の学び方や様々な答えがあること(見開き1頁)、自分を見つめること、道徳ノートに書くこと等の説明文がある。その後、教材の頁となる。

教材文の頭には、主題がある。各教材文の最後には「考えよう 話し合おう」で、「学習の道すじ」として教材の中で考える場面や問い、自己の振り返りや今後に生かす文がある。また、「学習を広げる」も時折有り、本の紹介をしている。

(エ) 道徳ノート

別冊の道徳ノートは、教科書最後に挟むようになっている。ノートの最初に「ノートの使い方」と、目次がある。次に「今の自分を見つめて」の記入頁がある。その後は、指導内容4つの視点毎に大きく分けられ、指導内

容毎に見開き1頁あり、解説(導入に関わる頁)1頁、学習の記録(2回分の記録)1頁となっている。1指導内容につき見開き1頁である。特に解説に於いて指導内容についての説明や問いを設けており、学習の導入として利用可能である。途中3箇所コラムがあり、巻末には「心に残っている授業の記録」、「話し合いの記録」、「体験活動の記録」、「学習の記録」が各数頁、教材の学習日時と評価のチェックが1頁、指導内容毎のチェックが1頁となっている。

4. まとめ

各出版社とも副読本を作成してきた長い歴史がある。その実績を活かすと共に文科省で作成されてきた読み物資料や「心のノート」、「わたしたちの道徳」が今回の教科書作成には大きく影響している。特に基本的な構成や目次については、各出版社の「(ウ)表紙以降の頁構成」で指摘したように「わたしたちの道徳」に習っている。また、教材も文科省選定をよく取り入れている。これは、2014年10月中教審答申、2015年3月学習指導要領の一部改訂で教科化が正式に決まり、各出版社の編集、検定、採択までの時間の無さと、各出版社の教科書ビジネスが多少とも影響しているのであろう。そのような中で各社、道徳科の学び方や主題、記録等で工夫を凝らした教科書となっており、甲乙付けがたい。つまり手に取って、紙質やサイズ、写真やイラスト、記述等では採択する時に判断しにくいと言うことである。話し合うポイント等の記述もあり、道徳ノートも付いて、授業展開や評価をする上で、若手教師でも指導し易いかもかもしれないが、一律であり、今までの教材を踏襲した変化の無いものになっているような気がしてならない。「考え、議論する道徳」や「問題解決的学習」等を前面に打ち出してきた割には、今まで通りの教材で、今まで通りの学習指導になってしまうのではないかと危惧するところである。そこで、年間指導計画の展開の概要を立案する時に、教科書や教師用指導書に書かれている指導展開例をそのままにすることなく、「登場人物の心情理解のみの指導」や「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い」にならず、固定化・形骸化した指導方法から脱却したいものである。そのためにも指導内容・資料分析を十分にして、各学校の児童の実態に沿いながら学習指導法の工夫が期待される。

今回取り上げた教材の指導内容数については、基本的には「学習指導要領総則第3章第6節道徳教育推進上の配慮事項、2指導内容の重点化」に依っているが、各社それぞれであり、編集方針が反映していることが窺える。これについては、教科書を採択する時には見えず、

表4や表5の各出版社の教材数一覧、平均値は参考にすべきである。そして、指導内容の重点化を明確に打ち出している、教出、廣あかつき、逆に平均的に取り上げている光村、学年に応じて重点化を試みている東書、日文、学研、光文、学図と言える特徴を参考にすべきである。各教育委員会や各地区採択委員に於いては、体裁や活用に関わる記述等、手に触れた時の第1印象が大きいであろう。しかし、それぞれの地域の特色や児童の実態に応じて指導内容の教材数、指導内容の重点化にも目を配りながら採択することが、以後の道徳教育全体計画、年間指導計画作成にも影響することを念頭に置いておかなければならない。強いては、目指す子ども像、学校教育目標の具現化にも大きく響くことにもなる。

おわりに

2015年度より、道徳科を先行実施した小学校もあるであろう。しかし、教科書が採択され、全体計画や年間指導計画に明確に位置付け、本格化したのは本年度からである。教科書の教材を実践しながら、教材の善し悪し、展開の在り方、評価の在り方等、教科書やノートの記述や説明が適切かどうかは現場の実践に掛かっている。各社は、現場の実践の声をどれだけ吸い上げることができるかに掛かっている。また、現場の教員は、各学校の年間指導計画や展開の大要に従って授業をするであろう。その時に教科書の主題や記述、教師用指導書の展開例等に従順であること無く、児童の実態や教材の特徴を見極めながら、より目標達成に繋がる工夫が期待される。その中での成果を学年や学校で共有し、次年度に向けての指導計画の見直しに活かし、我が校ならではの全体計画や年間指導計画に繋げることが期待される。

道徳科の次の教科書は、2020年度から使用される。各社、次の教科書に向けて改訂作業が本格化しているものと思われる。また、2019年度からは中学校でも道徳科が完全実施され教科書が使用される。小学校の道徳科教科書との相違・共通点が気になるところである。

引用・参考文献

- 1) 産経新聞オンライン2017年11月7日「小学校道徳教科書シェアトップは東京書籍と日文」
- 2) 読売新聞 朝刊2017年12月14日「初の教科書議論を重視」
- 3) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編
- 4) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領総則編
- 5) 教科用図書検定調査審議会 「特別の教科道徳」の教科書検定について(報告)2015年7月23日
- 6) 寺脇研(2018)「危ない道徳教科書」 宝島社